

虚子記念文学館投句特選句

・令和七年四月

稲畑廣太郎 選

日本に平和もたらす朝桜

京都 西村やすし

はだれ野の獣の影の息づかひ

奈良 河村久美子

佐保姫のまみえし朝の別れ霜

広島 今野 真

町の灯に連れ戻されて春夕

兵庫 松浦百重

花屑のたましひ土に移りけり

神奈川 進藤剛至

直線の風曲線にする柳

大阪 須知香代子

すみれ咲く一途な色の褪せずして

兵庫 川村ひろみ

ふるさとの花見て芦屋川の松

徳島 多田まさ子

立ち上がる名もなき国や蜃気楼

兵庫 武田奈々

だるまに目えんぴつでかく夏近し

滋賀 太田 慈

（青少年）

（青少年）

入選句・令和七年四月

かみそりを頬へ憲法記念の日	大阪	押見げばげば
夫の駄洒落少し可笑しく万愚節	京都	前悦子
長閑なり特等席となる窓辺	大阪	河辺さち子
真つ新な顔と心で入学す	兵庫	池田文子
ホトトギス闇の奥から聞こえ来ぬ	兵庫	松岡一世
鉄道は走るよ春の左側	兵庫	豆蘭
なまなまと肉筆の日記紅つばき	兵庫	桂凜火
清明に楽しき道行き虚子の館	兵庫	うづき巴那
春の空綿毛のやうな雲のゆく	石川	辰巳昌彦
春愁やよもやよもの三連敗	兵庫	森岡喜恵子
易易と殿様蛙つまみあげ	大阪	多田羅紀子
登山道腰を叩けば山笑ふ	香川	藤田敦雄
蝌蚪生れて水に動きの始まりし	石川	辰巳葉流
罅りや杜の黙解き透きとほる	岡山	門田和美
入学の子の銀輪や輝けり	三重	中島庸子
花かんざしのお馬ぼくぼく摩耶詣	兵庫	前田容宏
花好きの先師の松の咲く高さ	岡山	奥山登志行
ペンペン草畑一面の長者かな	大阪	徳永由起子
落花浴ぶ地震のニュースに怯えつつ	大阪	田中靖子
蔵町の和傘はんなり水の春	岡山	田口ひさえ
椿全開飛石に鳥の糞	香川	三好ようこ
生徒より母の泪や卒業式	大阪	室田妙子
桜餅辛党の夫仲間入る	三重	吉川博子
若木まだ花の雲とはなりきれず	大阪	奥野千草

朝光にきらめく野面別れ霜	大阪	田邊育子
別れ霜老いてゆくとはわがままに	兵庫	岩鼻絹子
花の道抜けてパンダの錆びし居へ	兵庫	槌橋眞美
花人に混り駅出て虚子館へ	大阪	徳岡美祢子
裏町を流るる艶歌春灯	三重	池本準一
旅立ちの発車メロディー駅うらら	石川	白根寿子
息苦し音なく黄砂降る夜は	大阪	生澤瑛子
麗らけし川辺を駆ける仔犬かな	兵庫	伊東伸子
サザエ屋の花を載せたる桜餅	兵庫	小林昌子
咲き満つる花の重さを風に知る	奈良	堀田ますみ
母と歩すピンクの靴や風光る	兵庫	藤丸千香子
春の灯に増ゆる賑はひ出で湯街	兵庫	北井真有美
首一つリード駿馬は東風となる	大阪	ふじもと言果
何もかも忘れたき日の朝寝かな	兵庫	高橋純子
この庭の枝垂れ桜の枝垂れ撮る	大阪	谷本房子
主なき誰も踏まぬ庭落椿	兵庫	黒田千賀子
清明の後の桜や芦屋句座	兵庫	谷本逸歩
水音の影を育てて菖蒲の芽	奈良	山口廣世
風に添ふ深きうねりや雪柳	三重	松村咲子
朝桜言葉奪はれ立ちつくす	兵庫	舩山美貴
春灯やエトランゼ舞ふ神楽殿	奈良	堀田建夫
入学の弾める背ヲを送り出す	大阪	藤本公子
綺羅やさしぬえ橋よりの春の海	兵庫	日下富貴子
俤の煙管をこんと春日桶	兵庫	吉田知子
隠れ里めきて霞の伊賀盆地	大阪	杉山千恵子

忌を重ね過ぎてゆくなり春の暮	兵庫	河合美恵子	咲きみちし花の順路を虚子館へ	大阪	林 曜子
すかんぽを囃り昭和の音を聞く	兵庫	上岡あきら	樟落葉汀子の句碑に差す日射し	兵庫	辻田あづき
クルーズの数多の窓や春灯し	兵庫	宮本露子	朝寝して子らの寄り来る寝床かな	兵庫	辻 桂湖
春ともし昔の恋の話など	兵庫	小柴智子	虚子館の真赤な椿子物語	兵庫	高杉靖子
写仏画の筆の遅速や春灯	兵庫	高野さち	入学の新たな一步頼もしく	兵庫	深尾真理子
樹海出てより轉につつまるる	兵庫	田村恵津子	去年のこの川に思ひ出桜咲く	兵庫	岸川佐江
花満ちて遊子ぞろぞろ芦屋川	兵庫	細田清子	告げざるもまたさだめなり卒業す	兵庫	永沢達明
湯上りの母の手ギュツと春灯下	兵庫	小川孝子	雨垂れに大きく会釈雪柳	鳥取	前田 千
水音の土筆の所在告げゐたり	大阪	北上美佐子	雲の影春田を過ぎり校庭へ	奈良	堀ノ内和夫
花衣少し厚めに風に処す	京都	山崎貴子	嘴光る雲雀のこゑのする畑	三重	水越晴子
入学の吾子見失ふ体育館	兵庫	武田優子	花満ちて村の呼吸の清々し	京都	杉森大介
独り球打つて球追ふ百千鳥	岡山	石井宏幸	春の海うす紫の風を抱く	兵庫	足立朱麻
待つ心追ひし心や蜃気楼	愛知	太田ゆう	日曜日なれば堂々知恵貫ひ	愛知	海神瑠珂
きよろきよと足ばたばたと新入生	徳島	奥村 里	原爆忌折り目の甘き鶴一羽	富山	三河三可
難読の名前のずらり入学式	大阪	西尾浩子	青空へカツと目開くるめざしかな	兵庫	町田葦たか
ズボンには入学式の皺のあり	福岡	藏本 翔	しゃぼん玉おちよぼのちよぼへばびぶへぼ	大阪	棕本望生
今日からは苗字で呼ばれ入学す	香川	葛原由起	気遣ひのなきよろしさよ桃の花	兵庫	吉村玲子
峠越え花の遅速を見る旅に	鳥取	棕 則子	花は散る混沌の世を眺めつつ	兵庫	松本 敬
瞬きをすれば失ふ蜃気楼	兵庫	中村恵美	春嵐大しめ縄は左巻き	静岡	いたまき 忖
入学の子らの喧騒まぶしかり	兵庫	窪田真由美	虚子館の若葉明りに学びをり	兵庫	藤井啓子
春灯下父の遺愛のパイプかな	兵庫	涌羅由美	風あるも花満開の芦屋川	新潟	安原 葉
椿子の展示呼んでる雪柳	兵庫	奥田好子	追ふ尾灯滲む深山の春の闇	兵庫	二瓶美奈子
句会にて華やぐ声に桜咲く	兵庫	ゆきうさぎ	夕桜餓鬼大将とてGPS	兵庫	西村みどり
水温み朝の光にほくそ笑む	兵庫	つきよみ子	から騒ぎの大団円や春闌くる	兵庫	風待ラテ
芦屋川桜まつりを漫ろ歩す	兵庫	池田雅かず	春灯に椿子人形ちよと笑まふ	兵庫	玉手のり子

小でまりの揺れて大地をくすぐりし	兵庫	入谷千恵子	なめらかに流れるハノン夏近し	滋賀	太田怒忘
こんなにも妻を知らずか春の暮	兵庫	道中義臣	ひだりかと思へばみぎへ蛙の子	東京	宮村土々
寺の鐘の音の溶けゆく春夕べ	兵庫	三木雅子	青き踏む嵯峨野の畠にひとの影	兵庫	キートスばんじょうし
小粉団や風吹けばその重さ見ゆ	兵庫	金田八江子			
こでまりの揺るる作業所雨もよひ	兵庫	山崎渺美			
西へ向き貨物船過ぐ春の暮	兵庫	山岸正子			
老いてなほ市民講座の新入生	兵庫	高市敦之			
身の上をふと話したき花の雨	兵庫	福田光博			
山桜加へ吉野に色散らす	東京	大月浩子			
こんなにも待たせて花の無常かな	兵庫	岩水ひとみ			
歳時記を返す図書館花は葉に	愛媛	星月彩也華			
晶子忌や花見小路の犬矢来	滋賀	近江堇花			
しゃぼん玉親子夢中で風になる	神奈川	小林 心			
武者人形大谷めきてすくと立ち	奈良	豚々舎休庵			
遠山の涯の見えざり惜春忌	愛知	小野 薫			
文明の脆さ悠久の大満月	兵庫	松本 守			
木の芽味噌しろものよりも厚く盛り	神奈川	斉藤苑子			
ふらここに思ひの丈を打ち明けり	兵庫	恵島祥一朗			
春愁やパンダが全部なくなる	和歌山	中島紀生			
馬鈴薯を植ゑてラヂオの演歌かな	兵庫	太平楽太郎			
まほろばの色淡々と藤の花	兵庫	伊集院秀樹			
桜餅食べて談義や葉の行方	兵庫	阿曾宏之			
宣誓の吾子の指さき風光る	東京	桜鯛みわ			
朧咲きの桜を撫でて一年生	神奈川	平野孤舟			
覗き込む子の影に入る蝌蚪の群れ	神奈川	金子三奈乃			